

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第3回会議 中央地区部会（概要）

1 日 時

令和4年8月9日（火） 13：30～16：00

2 場 所

秋田南高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 9名

○事務局（高校教育課） 7名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・小規模校を維持するには、費用が相当かかっているのではないかと考える。費用対効果を考えれば、統合して教育の質を上げることを考えた方が、将来的にプラスではないか。
- ・規模の合理性からいけば、この人数であれば統合した方がいいと言われると思うが、一方で、地域との関わりを大事にしているような学校は、少しでも何とか残していけるような配慮も必要ではないか。
- ・第七次計画で示されている特別な事情がある学校をどんどん減らしていかないと、秋田県の高校再編が進まないのではないか。特別な事情がある学校がたくさんあり過ぎる。特別な事情については、もっと絞っていかなければならない。
- ・生徒が通いやすい場所に新たに学校を設置するなど、通学方法に対するフォローも検討していただきたい。秋田県は子どもを大事にする県だと思っている。
- ・男鹿潟上南秋地区を見ると、男鹿海洋高校と男鹿工業高校の統合が決まっている。専門学科は、洋上風力発電などの再生可能エネルギー関連産業を視野に入れた人材育成などで目玉をつくれそうだが、この地区の普通科9学級をどのようにしていくのかということも合わせて考えていく必要がある。
- ・秋田地区については、隣接する地域から多くの生徒が通学している。隣接する地域とのバランスを考えていかなければならない。
- ・由利本荘にかほ地区では、秋田市の高校に行く生徒もいれば、酒田の方に行く生徒も

いる。地域に残って欲しいのか、それとも秋田県に残って欲しいのか、視点を変えながら考えていかなければならない。